

令和3年9月8日

北九州市長 北橋 健治 殿

北九州市議会公明党議員団  
団 長 岡本 義之

## 新型コロナウイルス感染症対策に関する緊急要望

新型コロナウイルス感染症については、約1年半もの間、感染の「拡大」と「収束」を繰り返しており、現在は、感染力が非常に強い、デルタ株の影響による「第5波」の真っただ中にあります。

一日の新規感染者数が、過去最多を更新する日が続き、これまで感染し難かった、子どもへの感染も拡大するなど、本市は、未だかつて経験したことのない難局に直面しています。

この間、医療提供体制の崩壊や、重症者の爆発的な増加を招くことなく、ワクチン接種を着実に進め、市民生活や地域経済への影響を、可能な限り小さく抑えてこられた北橋市長をはじめ、市職員関係各位の日夜にわたるご尽力に改めて感謝いたします。

しかしながら、感染力の強い新たな変異株が次々に発生し、ワクチンを2回接種した方の感染も確認される中、今後も引き続き、市民の生命と健康を守り抜いていくためには、さらに強力な感染防止対策を講じることが、強く求められています。

ワクチンとともに、コロナ収束の切り札である、有効な治療薬の積極的な活用も、極めて重要です。また、増加傾向にある自宅療養者についても、市民に大きな不安が広がっていることから、さらに、きめ細かな支援が求められています。

また、感染が拡大している、家庭や保育所・幼稚園・学校での感染防止対策や、コロナ禍の長期化により疲弊しきった市民生活への支援など、本市が、今まさに直面している危機を乗り越えるための対策は、何よりも優先的に取り組むべき、喫緊の課題といえます。

本市の財政状況が非常に厳しい中ではありますが、市民の生命と健康を最優先とし、その安全を確保しつつ、雇用や産業・生業を支え、さらには本市の将来の成長につなげていくためにも、公明党議員団として、今、緊急に取り組むべき対策に的を絞り、以下の対策を強く要望させていただきます。

## 記

### 1) 新型コロナワクチン体制

- ①国に対して今後のワクチンの安定供給と3回目接種も視野に入れた無料化を要望
- ②若者世代のワクチン接種率向上に向けた広報啓発
  - ・ワクチンをめぐるデマ情報に対し専門家による情報発信
- ③新型コロナに関して正確な情報発信
  - ・新型コロナウイルス感染者の後遺症の問題なども情報発信

### 2) 検査体制

- ①職場・学校・医療・福祉施設などで陽性患者が発生した場合、保健所による濃厚接触者の特定前に、それぞれの施設長の判断により、PCR検査の実施を可能にすること
- ②感染への不安があり、PCR検査を希望される方への検査費の助成を実施すること（濃厚接触者の同居家族など）

### 3) 医療提供体制

- ①県の宿泊療養で運用されているICTについて、本市においても活用できるよう整備すること
- ②県と連携し、ホテル療養者用の酸素ステーションの早期設置とともに、酸素ステーションにおけるレムデシビル投与体制の構築
- ③軽・中等症患者らに、抗体カクテル療法（ロナプリーブ投与）の迅速な投与体制の構築（特に、重症化リスクの高い基礎疾患のある方や妊婦などへ、感染確認後、1週間以内に投与できるように）
- ④抗体カクテル療法などを実施する際、患者の自宅から医療施設等への搬送体制の強化
- ⑤医師派遣など「産業医科大学との包括連携協定」の効果的な活用

### 4) 自宅療養者及び同居家族等への支援強化

- ①新型コロナウイルスに感染した自宅療養者に対する密接な連絡や相談、配食サービスなどの体制強化と、保健所と一緒に健康観察を担う（仮称）「ホテル療養・自宅療養者支援センター」の設置

- ②同居家族への感染予防グッズ（N95 マスク、子ども用サージカルマスク、防護服、ゴム手袋等）の配布
- ③自宅療養者の家庭内感染の拡大や重症化を避けるため、国立成育医療研究センターのHP で公表している「子どもの自宅療養の注意点」等を参考に市民に対し、分かりやすい情報の発信

#### 5) 子ども・児童、学生の感染症対策

- ①保育所・幼稚園・小中学校等のさらなる感染対策強化
- ②布マスクやウレタンマスクより、感染予防効果のある不織布マスク着用に向けた経済的支援
- ③コロナ禍における子どもの心のケア

#### 6) 生活支援

- ①国に対して特別給付金の支給、または、使用期限付きクーポン券等の配布を要望
- ②感染者の後遺症に対する相談窓口の設置